

総 括

下、開催された。試験結果の不確かさの算出と評価関連 4 編、技能試験の評価方法関連 3 編、現地計測などの試験結果の信頼性関連 4 編の発表において、土の試験・調査では避けられないサンプルのばらつきの取り扱い方が議論され、より良い試験方法も提案された。最後の 1 時間はパネルディスカッションが行われ、研究委員会の活動報告、不確かさ評価の必要性、地盤工学会の室内試験規格基準委員会での話題など、5 名のパネラーから話題提供を受けて、参加者と共に議論された。ここでも、地盤や土そのもののばらつきが試験・調査結果の精度へ与える影響をどのように評価するかについて意見交換があった。さらに、試験結果を実務へいかに有効に利用するかが議論され、今後の重要なテーマであるとの認識を共有した。

(文責：関西地盤環境研究センター 澤 孝平)

【DS—10 地盤情報データベースの整備とその利活用】 (発表：15編)

2 件のキャンセルがあったため、15編の発表であった。全国電子地盤図の作成状況についての報告と電子地盤図や地盤情報を用いた利活用についての内容からなる。地盤情報の整理はこの数年で大幅に整備され、全国的に広がりを見せている。しかしながら、地盤情報の利活用について、事例を含めて明示しデータベースの整備に対する価値を明確にすることが今後の発展に必要であることが指摘された。電子地盤図の整備についても、地盤工学会の各支部が実施することに対し、どのように本部が支援するのかという質疑も多く出され、体制を整備する必

要があると思われる。

(文責：(財)地域地盤環境研究所 北田奈緒子)

【DS—11 大都市沿岸域の複合地盤災害への取組み】 (発表：4 編)

一般発表では、国際地盤工学会 TC303 の活動と展望、遠心力場での模型実験による津波による洗掘及び地盤の液化化被害に及ぼす余震の影響についての研究成果が発表された。いずれの研究も、新たな課題への取組みとして極めて独創的な内容であった。総合討論においては、東日本大震災で問題提議された「想定外」という側面にどのように取り組むべきか、数千年に 1 度という時間スケールに対してどのように知見を伝承すべきか、など、ディスカッションセッションに相応しい充実した内容の討論が展開された。

(文責：京都大学 井合 進)

【DS—12 岩盤構造物・岩盤基礎の耐震性及び不連続性岩盤の動的性質】(発表：8 編)

岩盤の耐震性について数値解析や実験を通しての検討結果が発表され、それぞれに長所、短所があり実問題が抱える諸問題をすべて同時に解決することはまだに困難であることが再認識された。これらの検討から得られた成果は、実際のデータとの検証を経て初めてその価値が認められることになるが、地震時における実岩盤の挙動に関する情報が極めて不足しているという現実が、その達成を阻んでいることが改めて認識された。

(文責：神戸大学 芥川真一)

第46回地盤工学研究発表会 研究奨励セッション

【土の物理】(発表：3 編)

研究奨励セッション(一人持ち時間30分)の先発は、廃棄物処分、エネルギー資源確保、環境変化を研究背景にもち、土が生まれたときの物理・化学的環境が土の将来に及ぼす影響や土の環境が変わることで土がどのように変化するかを丁寧な実験で明らかにしようとする熱意あふれる内容であった。土の物性が変化と、土の変形・破壊の進行、土構造物の機能がどのように変化するかをつなげていく研究は、新しい魅力的研究であり、今後、ブレイクスルーが期待される。

(文責：名古屋工業大学 前田健一)

【土と水の連成】(発表：3 編)

3 件の内容は、実務、設計、メカニズムのそれぞれの観点から、地盤力学における土と水との連成を議論するものであった。土と水との連成は地盤力学の根幹である。一見、地盤力学の停滞を象徴する内容の拡散と感じた方もおられたと思うが、過去からの積み上げを最新の道具で

解剖することによって、地盤力学のあるべき体系を模索するセッションとなっていた。ブレイクスルーはひょんなところから突然に現れる。因習の殻を破り、新しい地盤力学の萌芽となるよう、継続的な実施が望まれる。

(文責：神戸大学 飯塚 敦)

【土と構造物】(発表：3 編)

No. 7 は杭の水平反力係数のひずみ依存性を静的載荷試験と小型起振器による共振実験で評価しており、その成果は施工時の品質管理や既設構造物の耐震診断への活用が期待できる。No. 8 は不飽和土の構成式を議論しており、今後は初期値・境界値問題への適用を通して、締固めや浸水を受ける盛土構造物の挙動予測への活用が期待される。No. 9 は「見える化」をアンカー軸力に展開した例であり、耐久性等に課題はあるものの、社会基盤施設の健全性を市民に周知する試みとして特筆に値する。

(文責：金沢大学 小林俊一)